

# 「台風情報の表示方法等に関する懇談会」(第2回)の議事概要について

平成18年2月9日

## 1. 懇談会の概要

日時：平成18年2月2日(木) 13:00~15:30

場所：気象庁大会議室(5階)

出席者：廣井座長、田中副座長、石橋、磯澤、谷原、宮崎、山崎、細川、生駒、  
金谷、宮本 の各委員(敬称略)  
平木予報部長、瀬上業務課長

## 2. 議事概要

### (1) 懇談項目

台風予報の図表示方法の指針(案)

台風から変わった温帯低気圧に関する情報の発表方法(案)

その他

(2) 懇談会議事に沿って、事務局から資料の説明がなされた後、討議(個別の意見は別紙参照)が行われ、気象庁提案の「台風予報の図表示方法の指針(案)」及び「台風から変わった温帯低気圧に関する情報の発表方法(案)」について、懇談会です承された。

予報円と暴風警戒域の表示について、気象庁は3時間刻みでの情報を提供し、気象庁及びマスメディア等がそれぞれの目的にしたがって図表示する際に一部予報時刻を省略できるとする。

暴風域を見やすく、かつ分かりやすくするため、接線で表示することができる。

予報円の中心点、線は、付加的情報として表示することができる。

暴風警戒域に入る確率の面的情報は、防災機関ではそれぞれの利用目的にしたがって活用するが、マスメディアでの利用においては色や段階分けなど工夫が必要である。

台風から温帯低気圧に変わっても、暴風を伴って災害を及ぼすような場合には、台風情報として発表を継続する。

(3) この結論を踏まえて、気象庁では今後以下の手続きで対応していく。

この指針(案)について気象庁のホームページで広く意見照会を行い、

その結果も参考に指針を策定し、公表する。

新しい指針による図表示は、平成 19 年度の台風シーズンから実施していく予定である。また、台風から変わった温帯低気圧に関する情報については、準備の整い次第実施する。

(別紙)

## 「台風情報の表示方法等に関する懇談会」(第2回)の意見等について

平成18年2月9日

### 【台風情報の図表示方法について】

台風情報の最適な表示方法は、利用者が何をもとめているのかということ  
を基本に、議論を進めることが必要である。

台風情報は命を守る情報であるため、一見して瞬時に子供から高齢者ま  
で等しく理解できるように表示することが重要である。そのため、防災  
情報の根幹として、一元的でわかりやすい表示方法にすべきである。

予報精度の向上に伴い提供できるようになった新たな詳細情報を活かし  
ながら、これまで気象庁および日本のメディアが育ててきた国民の台風  
予報の表示方法に関する慣れ親しみ、理解の文化を、ニュースの防災情  
報の表示方法として継続して利用することが大事である。

### 【3時間刻みの予報円と暴風警戒域を一部省略することについて】

地域によって求められる予報時刻が異なるため、当該地域の報道機関が、  
地域の防災情報のニーズに応じて省略する予報円を選択して表示でき  
ることが望ましい。

インターネット等では全ての情報を省略せずに表示・利用できるように  
する必要がある。

### 【暴風警戒域を接線で表示することについて】

報道機関の解説では、暴風警戒域を接線で表示した方が、暴風警戒域を動  
かしながら解説できるため地域に特化した解説が容易な場合がある。た  
だし、暴風警戒域を接線で表示する指針の中には、この暴風警戒域の意  
味を改めて十分に解説することが望ましい。

### 【台風予報の中心点・中心線の表示について】

予報円の中心の点と線を表示しない現状でも、報道機関の解説では予報円  
の中心付近を通る確率が高いと説明している。点と線を表示しないよりも、両

方表示して「線、点があっても中心を通るとは限らない」との解説を加える方が台風の進路を説明しやすい。

#### 【「暴風域に入る確率」の面的情報について】

暴風域に入る確率の色使いや段階の分け方は、誤った安心感を与えないこと、影響の違いをわかりやすくすることなどの工夫が必要である。

確率を面的情報として表示することに慣れるまでには時間がかかる。今後も気象に関する確率情報が出されることを考慮すれば、このような情報を公開することで利用者の理解を徐々に深めていき、確率情報の利用を定着させていくことも重要である。

防災関係機関にはかなり有効な情報である。しかし、市町村へファックスで送信する場合も考慮してカラー表示でなくても理解できる表示方法を検討する必要がある。

#### 【台風から変わった温帯低気圧の情報発表について】

「台風が温帯低気圧になった」と発表された段階で警戒を緩めることが多い。温帯低気圧に変わった後も台風に相当する被害が発生したケースがあるため、災害のおそれがなくなるまでは温帯低気圧の情報を台風情報として継続して発表することは有効である。

情報の中で「温帯低気圧」という言葉があると安心情報と受け取られがちなので、引き続き警戒が必要なことが伝わるように温帯低気圧に「強い」や「発達した」等の修飾語を付けることを検討すべきである。

今回の提案による温帯低気圧に関する情報発表はできるだけ早い実施を望む。

#### 【その他】

「伊勢湾台風」のように台風の名前を付けることは、国民に災害の大きい台風を覚えてもらうことで防災意識を高める有効な手段であるので、検討していただきたい。